

春休み @ストラスブール大学 フランス語短期語学研修



しっかりフランス語を学びます



ストラスブールのシンボル
ノートルダム大聖堂

今年度もフランス、ストラスブール大学でのフランス語短期語学研修が行われます。この研修は、言語文化Ⅲ「文化事情(フランス)2」として開講され、「文化事情(フランス)1」と合わせて履修することにより単位認定されます。

期間 2016年2月28日～3月12日の2週間(予定)

定員 20名

- 参加資格**
1. 学部1、2年生
 2. 本学教養教育院にて「フランス語」科目の規定の単位を取得済み
 3. 今年度後期火曜5限「文化事情(フランス)1」を履修



清潔でくつろげる寝室



ストラスブール大学学生と

費用

850ユーロ(12万円)程度(以下1,2,3を含む;航空券は含まれない)

1. 学費:
ストラスブール大学付属語学学校にて授業(月から金)、市内見学、ヨーロッパ議会見学、美術館見学、郊外散歩など
2. 宿泊:
レジデンス・アミテル、語学学校から徒歩15分 2食つき
3. 家庭訪問、ストラスブール大学の学生との交流

費用補助

日本学生支援機構(1人につき8万円、16人分)および名古屋大学から補助を得られる可能性がある。(成績評価係数2.3以上の学生が対象)



語学学校で

説明会

9月29日(火)の5限に全学教育棟Call1教室にて、研修と履修登録に関する説明会を行います。必ず出席のこと。

★詳細や昨年度の研修の様子については、「名古屋大学 フランス語科のHP」
<http://french.ilas.nagoya-u.ac.jp/> や、言語文化Ⅲ「文化事情(フランス)1、2」のシラバスをご参照下さい。教養教育院の掲示にもご注意ください。



アルザスの家庭訪問



自由時間にストラスブール市内で



授業風景



フランス側責任者の Lett 先生
(中央)と別れを惜しむ

シラバス抜粋 言語文化Ⅲ「文化事情(フランス)1」後期火曜5限

❖ 履修条件あるいは関連する科目等

フランス・ストラスブール大学での短期語学研修(2016年3月実施予定)に参加希望の学生を対象とする。但し、上記研修に参加を希望しない学生の受講も可能。



トラムで移動

❖ 授業内容: 本学教員によるオムニバス形式で行う。

- ①10月6日: 飯野和夫(国際言語文化研究科)「ローマの継承者フランス？」
- ②10月13日: 尾上順(工学研究科)「化学からみたワイン」
- ③10月20日: 茂登山清文(情報科学研究科)「ストラスブールをアートから読み解く」
- ④10月27日: 石井三記(法学研究科)「フランス革命と人権宣言」
- ⑤11月10日: 河村雅隆(国際言語文化研究科)「放送メディアとフランスの政治」
- ⑥11月17日: 町田健(文学研究科)「フランスの言語-フランス語とオック語」
- ⑦11月24日: 奥田智樹(国際言語文化研究科)「フランス語史への誘い」
- ⑧12月1日: 鶴巻泉子(国際言語文化研究科)「国境を越えて?: アルザス・フランス・ヨーロッパ」
- ⑨12月8日: 渡邊雅子(教育発達科学研究科)「フランスの思考表現スタイルと学校文化」
- ⑩12月15日: 新井美佐子(国際言語文化研究科)「ジェンダーから見るフランス社会」
- ⑪12月22日: 梅村浩(多元数理科学研究科名誉教授)「世界一幸福な人(自由、平等、友愛)」
- ⑫2016年1月12日: 間野忠明(名古屋大学名誉教授、岐阜医療科学大学学長)「近代医学の黎明とフランス」
- ⑬1月19日: 長岡正隆(情報科学研究科)「個人的に見た仏科学の印象あれこれ」
- ⑭1月26日: ニコラ・ボーメール(教養教育院)「フランスの食文化: 料理、作法、風景」
- ⑮2月2日: 藤村逸子(国際開発研究科)「フランス語によるWebからの情報収集とプレゼンテーション」



ヨーロッパ議会見学

なお、本授業の単位認定には、15講終了後の指定の期日までにレポートを提出することが求められる(レポート試験)。レポートの課題、分量、提出期限、提出方法等は授業中に説明する。

❖ 成績評価の方法: 出席50%、レポート試験50%。レポート不提出の場合欠席扱いとなる。

❖ 注意事項

本授業2単位の認定を受け、ストラスブール大学での語学研修に参加し、課題提出による評価を受けた学生は、「文化事情(フランス)2」の1単位が認定される(「文化事情(フランス)2」のシラバスも確認すること)。また、上記研修への参加を希望しない学生には、「成績評価の方法」に従ってSABCいずれかの評価を得た場合、本授業の2単位を認定する。